

ロボット・テクノロジー関連株ファンド –ロボテック–(為替ヘッジあり) ロボット関連技術で注目を集める半導体企業

2017年5月15日

*当資料は、アクサ・インベストメント・マネージャーズが提供するコメントを基に大和投資信託が作成したものです。

お伝えしたいポイント

- 大きく変化する半導体の用途
- 専門分野での強みを持つ企業が高い成長へ
- 当ファンドで注目する半導体企業

大きく変化する半導体の用途

半導体は「産業のコメ」と呼ばれ、産業の中核を担うもので、かつては日本の基幹産業でした。その後、韓国や台湾の企業が半導体業界に参入し競争が激化すると、多額の設備投資と製品サイクルの短期化などから、多くの日本企業が撤退を余儀なくされてきました。現在、数少ない日本の半導体メーカーでもある東芝も、企業再編のなかで虎の子の半導体事業の売却を検討している状況です。

日本では、このような歴史的背景から半導体は必ずしも収益性の高い事業とは考えられていないこともあるようですが、現在の事業環境は、半導体の用途が主にパソコンであった過当競争の時代から大きく変化しています。最近では、半導体の用途がスマートフォンやタブレットに移行していることに加え、さらに今後は、工場や自動車などの自動化(ロボット化)やIoT(モノのインターネット)へと広がる見通しです。このような用途の拡大などを背景に、半導体は高い成長が見込まれています。

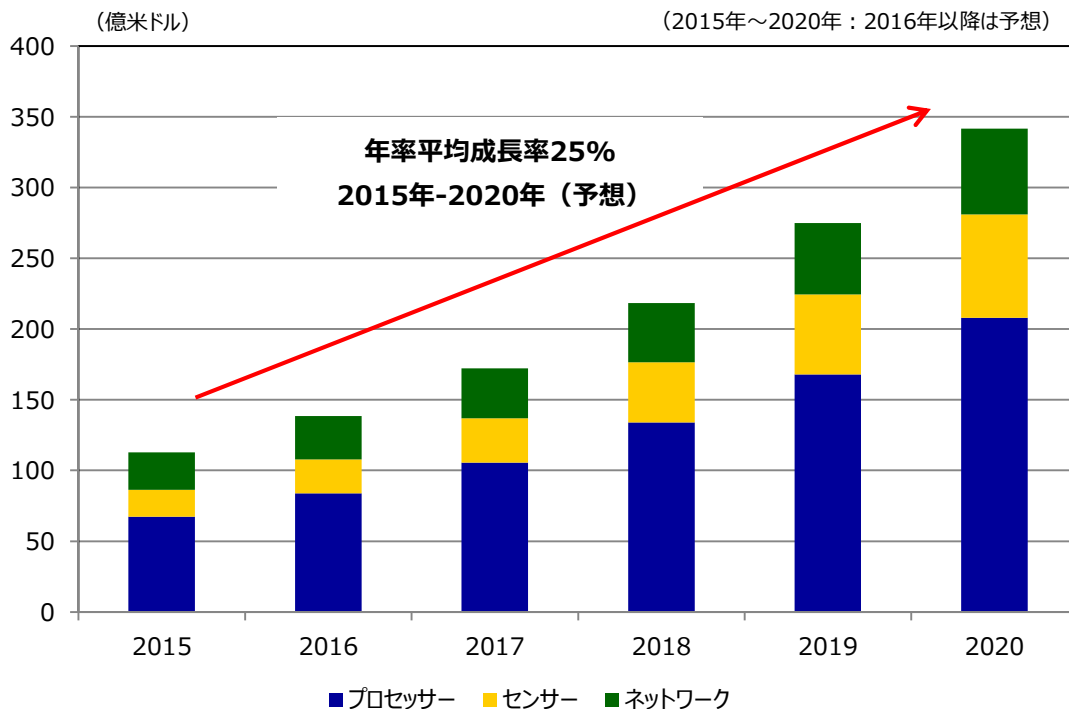
*「IoT」とは、Internet of Thingsのことで、あらゆるモノが通信機能を持つことでインターネットにつながり、相互に通信しあうことをいいます。

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものです。■当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。■投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。■当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみなさまの実質的な投資成果を示すものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。■分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒ 大和投資信託 フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00~17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

IoT関連コア半導体市場の売上推移



(出所: Gartner, BoA Merrill Lynchよりアクサ・インベストメント・マネージャーズ作成)

専門分野での強みを持つ企業が高い成長へ

かつて日本企業が競っていたのは半導体のメモリーといわれる分野で、DRAM(ダイナミック・ランダム・アクセス・メモリー)やフラッシュ・メモリーなどといった半導体製品を覚えていらっしゃる方も多いのではないのでしょうか。

これは、ほとんどがパソコンなどのコンピュータ向けでしたが、スマートフォンや自動車向け、また画像やネットワーク向けなどと多様化が進んでいます。

第4次産業革命といわれる新たな工場システムで工場内外のモノがインターネットにつながり、人工知能によってデータ分析が行われることや、運転補助システムを搭載した自動車が障害物や信号の認識を行うようになるためには、前述のメモリー以外にも、プロセッサ(コンピュータなどの中で、命令を解釈・実行する装置)やセンサーなどの多様な半導体製品が必要となります。また、クラウド・ネットワーキングやコネクティビティ(パソコンと周辺機器との接続の簡易さや、ネットワークへの接続のしやすさなど、複数のものを連結する際の簡易性)などへの対応も重要となってきます。

例えば、パソコンで使われる場合は演算機能の高度化が重要になりますが、スマートフォンは電源がない状態で使用されるため、演算機能の高度化よりも省電力化が必須となります。また、自動車で使われるものには、事故に至る危険性を回避することが最重要となり、パソコンに使用されるものよりはるかに高い正確性が求められます。このようにパソコンで使用されてきた半導体を、他の用途に転用することは簡単ではなく、それぞれの目的にあった半導体を製造し、その分野での強みをもった企業が大きく成長していく可能性が高まっています。

当ファンドで注目する半導体企業

当ファンドでは、様々な半導体企業へ投資していますが、足元では以下のような銘柄に注目しています。

【NXPセミコンダクター】

同社の製品は、スマートフォンでの使用率が非常に高く、省電力性能に加えて、暗号化などのセキュリティ面で高い評価を得ています。今後、クアルコム社と統合することで、さらにその強みが生かされると考えております。

【テラダイン】

同社は、半導体検査装置などを製造していましたが、2015年に協働ロボットメーカーであるデンマークのユニバーサル・ロボット社を買収し、ロボット関連産業に参入しています。

【エヌビディア】

同社は、画像処理で先端的な技術を持つ半導体メーカーです。今後の運転補助や完全自動運転分野における成長性に期待しています。

【アムバレラ】

同社は、イメージプロセッシングという画像をデジタル化する分野に強い企業です。今後の運転補助や完全自動運転分野における成長性に期待しています。

引き続き、成長期待の高いロボット関連産業の企業に投資を行うことでファンドの成長をめざしてまいります。

ロボット・テクノロジー関連株ファンド –ロボテック–(為替ヘッジあり)

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

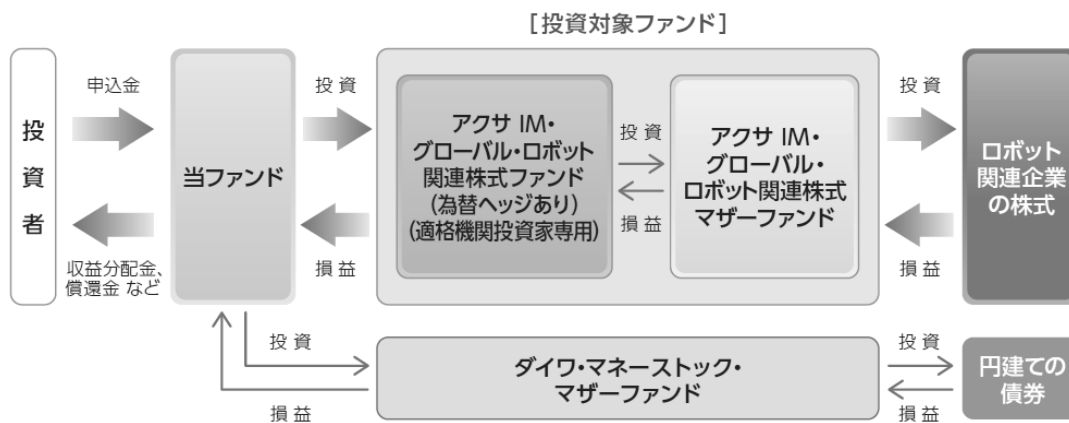
ファンドの目的・特色

ファンドの目的

日本を含む世界のロボット関連企業の株式に投資し、値上がり益を追求することにより、信託財産の成長をめざします。

ファンドの特色

- 日本を含む世界のロボット関連企業の株式に投資します。
※株式…DR（預託証券）を含みます。
※当ファンドにおけるロボット関連企業とは、ロボット・テクノロジーの開発や製造などにより、ビジネスを展開する企業を指します。
- 株式の運用は、アクサ・インベストメント・マネージャーズが担当します。
- 当ファンドは、以下の2本の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。
投資対象とする投資信託証券への投資を通じて、ロボット関連企業の株式に投資します。



投資対象ファンドについて

- ◆アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジあり）（適格機関投資家専用）（以下「ロボット関連株式ファンド」といいます。）は、アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社が設定・運用を行います。
- ◆株式の運用の指図に関する権限を、アクサ・インベストメント・マネージャーズ UK リミテッドに委託します。
※アクサ・インベストメント・マネージャーズ UK リミテッドは、アクサ・インベストメント・マネージャーズのロンドン拠点です。
- ◆「ロボット関連株式ファンド」への投資割合を、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。
- ◆「ロボット関連株式ファンド」は、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行いません。
※為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。
※為替ヘッジを行なう際、日本円の金利が組入資産の通貨の金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。
(注)一部の通貨について、為替ヘッジが困難、あるいは、ヘッジコストが過大と判断される際には、為替ヘッジを行わないまたは他の通貨で代替した為替取引を行なう場合があります。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

ロボット・テクノロジー関連株ファンド –ロボテック–(為替ヘッジあり)

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

投資リスク

●当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の変動要因は、以下のとおりです。

「株価の変動(価格変動リスク・信用リスク)」、「特定の業種への集中投資リスク」、「為替変動リスク」、「カントリー・リスク」、「その他(解約申込みに伴うリスク等)」

※新興国には先進国とは異なる新興国市場のリスクなどがあります。

※為替変動リスクの低減を図ります。ただし、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。一部の通貨について、為替ヘッジが困難、あるいは、ヘッジコストが過大と判断される際には、為替ヘッジを行わないまたは他の通貨で代替した為替取引を行なう場合があるため、為替変動の影響を受けることがあります。なお、為替ヘッジを行なう際、日本円の金利が組入資産の通貨の金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※くわしくは「投資信託説明書(交付目論見書)」の「投資リスク」をご覧ください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 (上限)3.24%(税抜3.0%)	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	ありません。	—
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
運用管理費用 (信託報酬)	年率 1.215% (税抜 1.125%)	運用管理費用の総額は、毎日、信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。運用管理費用は、毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支弁します。
投資対象とする 投資信託証券	年率 0.567% (税抜 0.525%)	投資対象ファンドにおける運用管理費用等です。
実質的に負担する 運用管理費用	年率 1.782% (税込) 程度	
その他の費用・ 手数料	(注)	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

(注)「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせください。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※くわしくは「投資信託説明書(交付目論見書)」の「手続・手数料等」をご覧ください。

設定・運用:

大和投資信託

Daiwa Asset Management

商号等

大和証券投資信託委託株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号

加入協会

一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ロボット・テクノロジー関連株ファンド –ロボテック– (為替ヘッジあり) 取扱い販売会社

販売会社名 (業態別、50音順) (金融商品取引業者名)		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商 品取引業協会
株式会社近畿大阪銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第7号	○			
株式会社埼玉りそな銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第593号	○	○		
株式会社りそな銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第3号	○	○		
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第67号	○	○		
七十七証券株式会社	金融商品取引業者	東北財務局長(金商)第37号	○			
島大証券株式会社	金融商品取引業者	北陸財務局長(金商)第6号	○			
大和証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第108号	○	○	○	○
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	

上記の販売会社については今後変更となる場合があります。また、新規のご購入の取り扱いを行っていない場合がありますので、各販売会社にご確認ください。